



KANSAI SCIENCE CITY

KEIHANNA SCIENCE CITY

2020

KYOTO

OSAKA

NARA

総合パンフレット

未来を拓く知の創造都市

都市の概要

けいはんな学研都市(正式名称: 関西文化学術研究都市)とは、京都、大阪、奈良の3府県にまたがる京阪奈の緑豊かな丘陵において、関西文化学術研究都市建設促進法に基づき、建設・整備を進めているサイエンスシティです。東の「つくば研究学園都市」とともに国家的プロジェクトに位置付けられ、総面積は約15,000ha、その中に12の文化学術研究地区(約3,600ha)を分散配置しています。京都市・大阪市の中心部から30km、奈良市の中心部から10kmの圏内に位置し、現在、150を超える研究施設、大学施設、文化施設などが立地し、各立地施設における就業者数(研究者及び職員)は概ね1万人となり、文化、学術研究等の分野で顕著な成果をあげています。

都市建設の意義・理念

1. 文化・学術・研究の新たな展開の拠点づくり
2. 我が国及び世界の文化・学術・研究の発展、及び国民経済の発展への寄与
3. 未来を拓く知の創造都市の形成

今日、人類の生存に関わる諸問題が懸念される中、世界では持続可能な社会の実現に向けて文化学術研究の一層の推進が求められているところです。けいはんな学研都市は建設の当初よりこうした課題に対し、地球規模での環境に関する研究や自然科学と人文・社会科学との融合による文化学術研究、さらには時代を先取りした多様な試みなどについて積極的に取り組んでいます。

都市建設の特長

民間活力の活用

都市建設にあたっては、学術、産業、行政、住民等各分野の連携を基調とし、民間活力を最大限に活用いたします。各分野の適切な協力、役割分担の下、都市づくりを進めます。

クラスター型開発

12の文化学術研究地区をぶどうの房のように分散配置し、自然環境の保全や、既成市街地、農林業と調和のとれた開発を進めます。また、各地区の特性に応じた都市機能を分担させることで、都市全体での調和も図ります。都市整備のための条件が整った地区から逐次開発を進めることで、過大な先行投資や大幅な計画変更が避けられ、計画的、段階的な開発が可能となります。

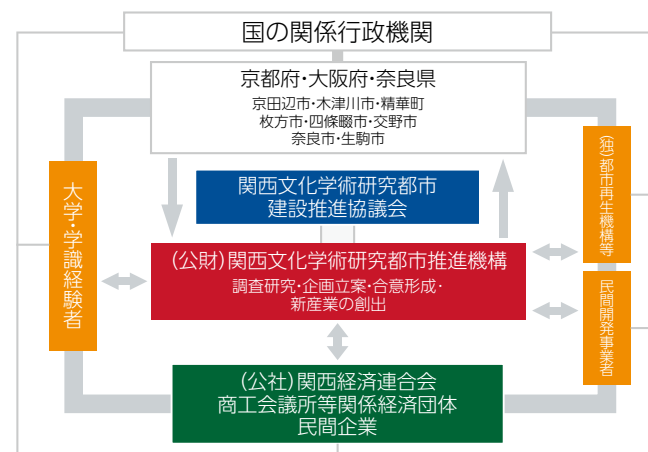
文化学術研究施設と住宅の複合開発

文化学術研究施設だけでなく住宅地も含めた開発とし、学術と(生活)文化の融合した複合的な都市づくりを目指します。住民の生活に根ざした、都市としての賑わいや魅力が演出できるとともに、住民参加による具体的な実証実験や評価が可能となります。

都市建設の経緯

けいはんな学研都市の建設は、1978年の「関西学術研究都市調査懇談会(座長: 奥田 東 元京都大学総長)」の提言から始まり、1983年に京都、大阪、奈良の3府県、関西経済団体などによって設立された「関西文化学術研究都市建設推進協議会」のもと、構想が具体化され、1987年の関西文化学術研究都市建設促進法の公布・施行を経て、国家プロジェクトとして本格的に都市建設がスタートしました。法施行後、30年余りが経過し、文化学術研究地区の概ね6割が整備されています。今後は、都市建設の推進とともに、これまでの取り組みの成果を活かした高度な都市運営を実現する段階へと移ろうとしています。

都市づくり推進体制



関西文化学術研究都市建設推進協議会

設立 1983年3月15日
主な事業 ①要望活動及び広報活動 ②文化学術研究施設等の誘致活動
会長 松本 正義(公益社団法人関西経済連合会会長)
代表委員 関西経済連合会会長、3府県知事、3商工会議所会頭、推進機構理事長、学識経験者 9人

公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構

本都市の建設を推進するために設立された公益財団法人
設立 1986年6月19日
理事長 柏原 康夫(公益社団法人関西経済連合会副会長)
常務理事 中川 雅永
理事 3府県、関係経済団体、企業関係者等 15人



けいはんな学研都市の構成・規模 (2019年4月1日 現在)

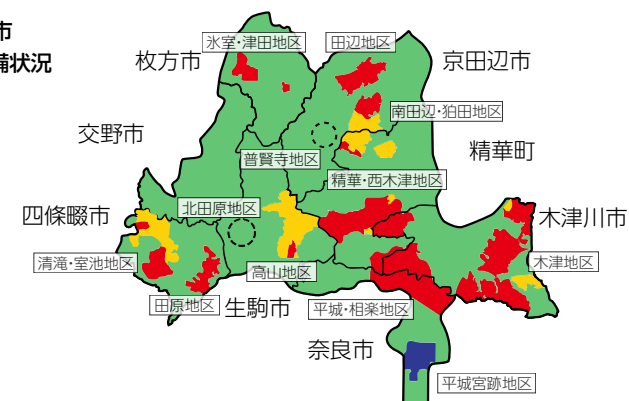
各構成自治体の状況 (人口は外国人登録者数を含む)

府県	行政区画全体		うち学研都市区域	
	市町名	人口(人)	面積(ha)	人口(人)
京都府	京田辺市	69,723	2,442	21,147
	木津川市	77,532	2,362	55,827
	精華町	37,427	2,566	37,427
	小計	184,682	7,370	114,391
大阪府	枚方市	401,397	1,510	33,380
	四條畷市	55,705	1,470	11,178
	交野市	77,834	1,550	14,495
	小計	534,936	4,530	59,053
奈良県	奈良市	356,352	1,460	52,948
	生駒市	119,795	2,050	25,465
	小計	476,147	3,510	78,413
合計		1,195,765	15,410	251,857

各クラスターの状況

府県	文化学術研究地区名(クラスター名)	所在市町	面積(ha)	計画人口(人)	現在人口(人)
京都府	田辺地区	京田辺市	100	0	55
	南田辺・狛田地区	京田辺市、精華町	344	19,000	3,569
	木津地区	木津川市	737	32,000	20,673
	精華・西木津地区	木津川市、精華町	506	25,000	21,328
	平城・相楽地区<京都府域>	木津川市、精華町	264	30,000	17,504
	普賢寺地区	京田辺市	未確定	—	—
京都府域計			1,951	106,000	63,129
大阪府	氷室・津田地区	枚方市	74	3,000	3,129
	清滝・室池地区	四條畷市	340	3,000	133
	田原地区	四條畷市	127	10,000	6,793
	大阪府域計		541	16,000	10,055
奈良県	平城宮跡地区	奈良市	142	1,000	513
	平城・相楽地区<奈良県域>	奈良市	362	38,000	23,711
	高山地区	生駒市	333	24,000	487
	北田原地区	生駒市	未確定	—	—
	奈良県域計		837	63,000	24,711
合計			3,329	185,000	97,895

けいはんな学研都市 各クラスターの整備状況 (2019.4現在)



けいはんな学研都市 シンボルマークについて

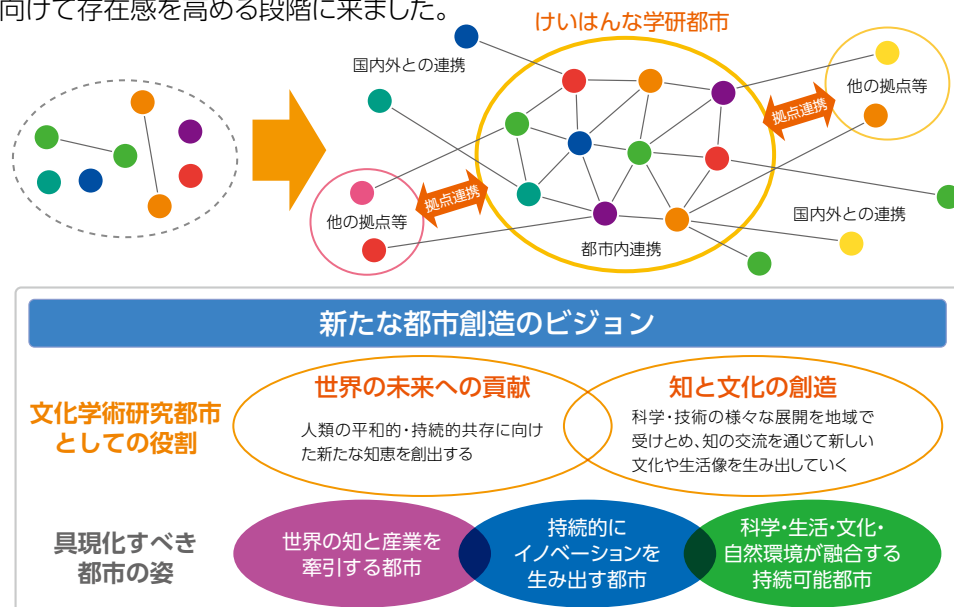
「けいはんな」は関西文化学術研究都市の愛称です。シンボルマークのモチーフは「飛天」です。飛天とは、飛びながら天の花を散らし、音楽を奏で、香を講じる天女のことです。柔らかな曲線はけいはんな丘陵を、3つの形は過去・現在・未来の時の積み重ねを、また京都・大阪・奈良、あるいは産・学・官の連帯を表現しています。

けいはんな学研都市 新たな都市創造に向けて 『新たな都市創造プラン』の概要

新たな都市創造プラン ～けいはんなが目指す姿～

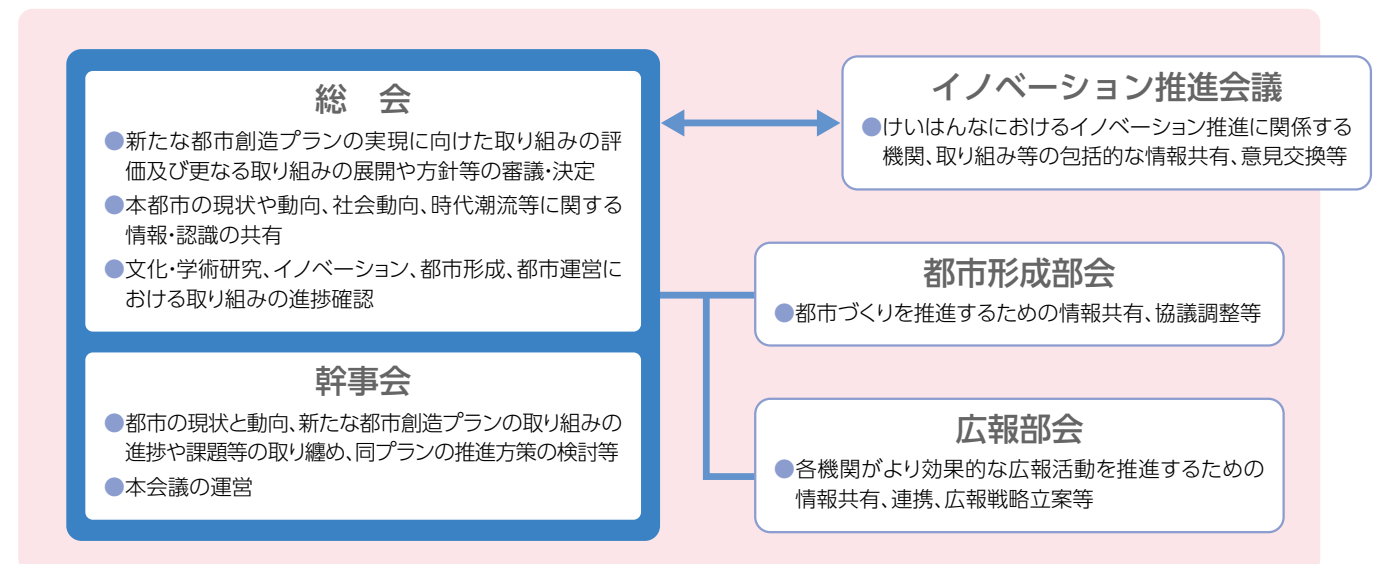
3府県に跨るけいはんな学研都市は、数多くの主体の集積や多様性を大きな強みととらえながら、新たな施設の立地や都市建設を進めています。あわせて関連する地域、組織との連携を深め、関西圏域全体の中での文化学術研究都市としての役割を果たしつつ、世界に向けて存在感を高める段階にきました。

この認識のもと、本プランは、
①集積する多様な主体が集積の強みを相互に活用し合うための持続的な「高度な都市運営」の体制を備えた地域を創造する、②これまでにない新たなまちづくりを実現する、の2つの意味において新たな都市を創造していくことを目的として、「新たな都市創造のビジョン」とともに、新たな体制及び都市の概ね10年間の方向を示すものです。



けいはんな学研都市「新たな都市創造会議」(2016年4月1日創設)

『新たな都市創造プラン』に基づき、相乗効果を生み出すネットワーク型運営体制として、けいはんな学研都市「新たな都市創造会議」が創設されました。関西文化学術研究都市推進機構理事長を会長とし、顧問、委員(学識者、国、地方自治体、大学、経済団体、公益事業者、立地機関、支援機関、交流機関、立地機関協議会等のトップクラス)の総勢70名を超えるメンバーで構成されています。多様なステークホルダーによる取り組み成果を共有、アピールするために都市全体を俯瞰的に評価する「けいはんなインジケーターマップ」を作成するなど具体的な取り組みがスタートしています。



ビジョン実現に向けた4つの取組

1 科学技術と文化の融合で知のフロンティアを開拓 文化・学術研究の振興

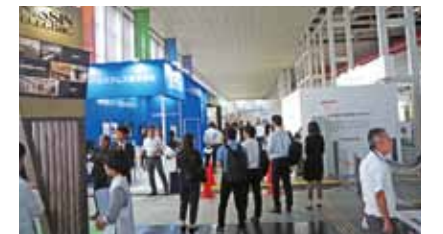
- 大学や研究機関等が相互に連携しながら、新たな知のフロンティアを開拓する拠点としての本都市の機能を一層充実
- 自然科学、人文・社会科学の横断的な連携により「世界の未来像」についての多面的な研究の推進
- 持続可能社会に向けた学術研究として、環境・エネルギー、人口・食糧・水問題、医療・脳科学など先端的な研究の展開を促進
- 大学・研究機関と立地企業等の連携による人材育成を促進
- けいはんなならではの文化創造に向け、暮らしの中で文化、学術、科学を身近なものとし、様々な「知」を楽しむ教育、学習プログラム等の推進



「持続可能社会の構築と科学」をテーマとして国際高等研究所が開催した第3回東京フォーラムの様子(2015年2月)

2 オープンイノベーションで世界に展開 イノベーション推進

- マーケットを見据えた研究開発戦略構築や、知財、利害調整、フィールド実証支援など、オープンイノベーションを基軸にプロジェクトの創出と推進を一元的にサポートできる新たな仕組みを構築し、科学技術を活用した産業化を促進
- けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)やインキュベーター施設、大学・研究機関との連携強化
- 関西活性化へのエンジンの一つとして関西のイノベーション支援機関のネットワークを構築するとともに、地域産業との連携を強化
- 世界とのつながりを強化するため、海外のサイエンスパークとの交流・連携や本都市にふさわしい国際会議や学会、セミナー等を積極的に誘致
- 海外の教育・研究機関、企業の誘致を促進、居住・教育・就労などの受入環境を整備



京都スマートシティエキスポ2019のけいはんなオープンイノベーションセンター会場の風景

3 世界に先駆けスマートな暮らしを育む次世代インフラ整備を促進 都市形成

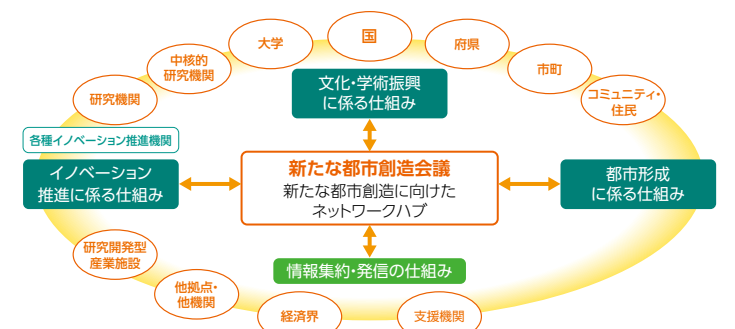
- 急速に進化するICTを環境・エネルギー、交通、イノベーションなどに活用して新たなライフスタイル(超快適な暮らし)を創造
- 歴史文化資源や自然環境を活かし、本都市の魅力を一層向上
- 都市の多様性を一層高めるため、今後開拓していくべき分野をリードする研究機関等の誘致、研究施設等と連携効果が発揮できる生産施設等の導入検討、交流を支えるコンベンション機能の充実、強化
- 国土軸との接続強化、関空や京都・大阪・奈良へのアクセスやネットワークの強化を図るため、学研都市連絡道路(国道163号)、山手幹線、大和中央道などの主要道路の未整備区間の整備を促進
- JR片町線(学研都市線)及びJR奈良線の複線化を促進、近鉄けいはんな線の延伸協議
- ICTを活用した次世代型の連節バス、カーシェアリングシステムなど、モビリティを高める新たな交通システム等の展開



様々な分野でICTを活用しスマートな暮らしを実現

4 相乗効果を生み出すネットワーク型運営体制の構築 都市運営

- 立地機関等が対等な立場で参画しながら新たな連携を生み出し、相乗効果のメリットを享受できるネットワーク型の運営体制に向け、①本都市全体のネットワークハブとなる新たな都市創造会議、②上記3つの分野における連携・協働による新たな仕組み、③都市運営の基盤となる情報の集約・発信の仕組みを構築



けいはんな学研都市から 新産業の創出

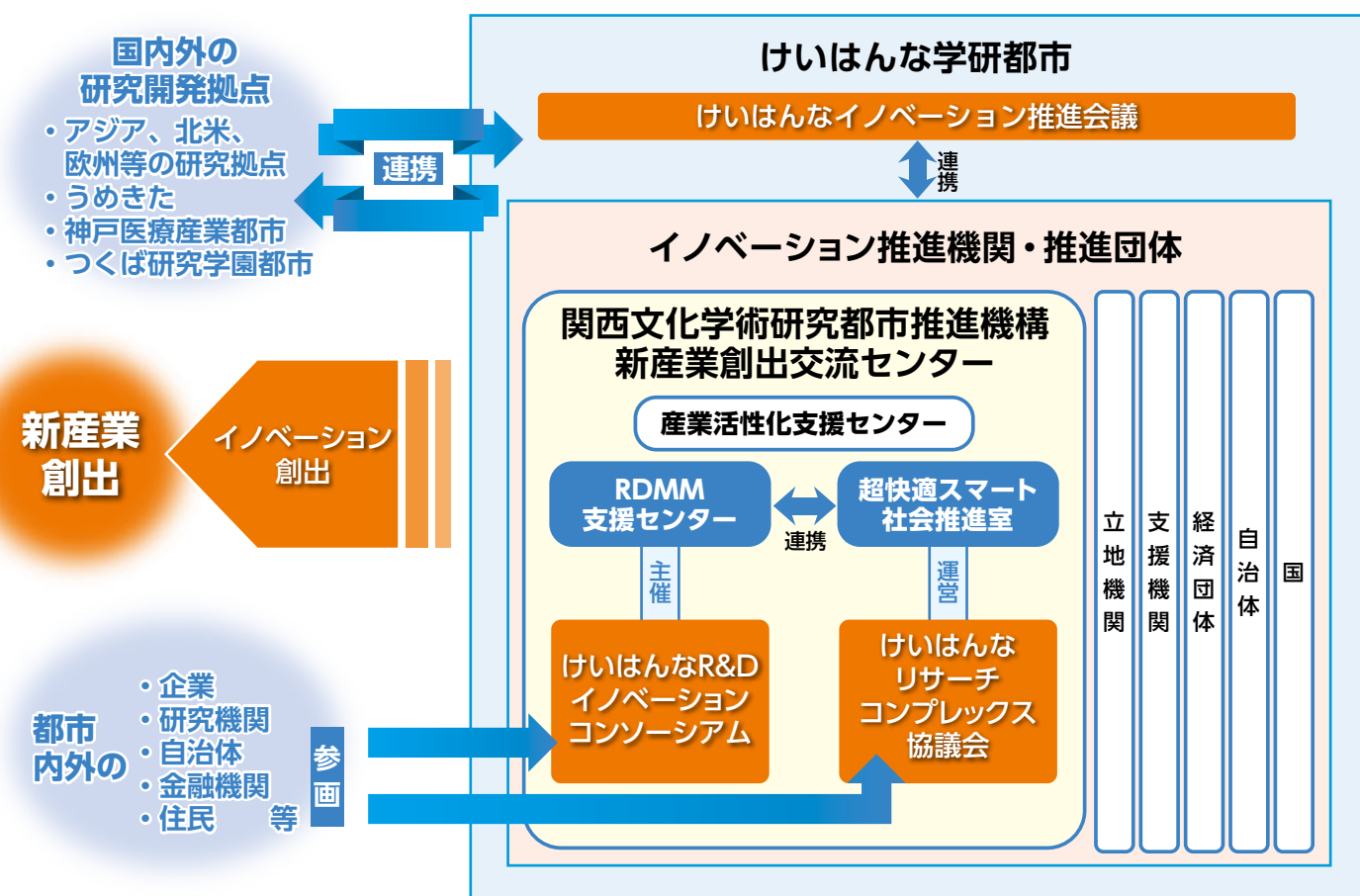
様々な規模・分野の企業や大学、研究所等が集積するけいはんな学研都市では、「世界の知と産業を牽引する都市」、「持続的にイノベーションを生み出す都市」を目指し、産学官連携の推進や、他の研究開発拠点や地域産業とも連携を図り、最先端の研究・開発の成果を生かした事業化、産業化への取り組みを強力に推進しています。また、特に近年、研究者の交流や海外企業・研究機関とのネットワークづくりも進展をみせており、研究開発領域の幅の拡大や国際連携の強化が進むなど、研究開発を支える環境も着々と進展しています。

今後も引き続き、学研都市の知の集積やポテンシャルを生かし、「情報通信」、「環境・エネルギー」、「医療」、「バイオ」など様々な分野で多彩な研究機関の総合力によりイノベーションクラスターとして成長を続けながら、「けいはんな発」の新産業創出を目指します。

イノベーション創出・産業活性化の取り組み

けいはんな学研都市では、様々な機関や団体が、中小・ベンチャー企業を対象とするきめ細やかなハンズ・オン支援や、イノベーション推進による研究開発成果の事業化・産業化を強力に推進しています。

また、「RDMM支援センター」の設置（詳細はP06に記載）や「けいはんなリサーチコンプレックス」の取り組み（詳細はP07に記載）など、オープンイノベーションを基軸とした持続的なイノベーションを創出する仕組みづくりに取り組んでいます。



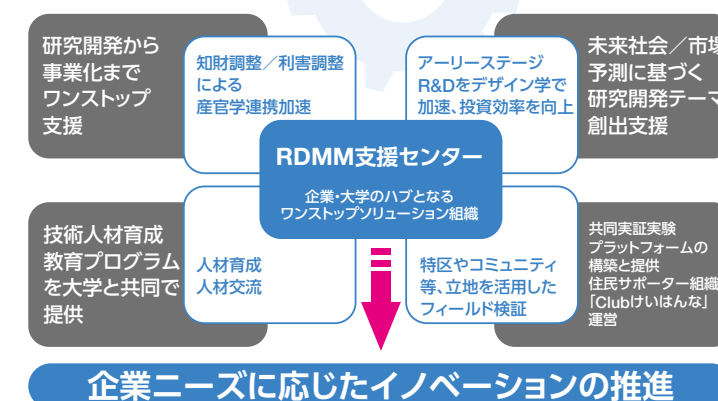
けいはんな学研都市の 持続的なイノベーションの創出 1

住民の皆様と共に未来都市を育むー新しい産業・ビジネスをけいはんなの地から

オープンイノベーションのためのハブ組織

RDMM支援センター

RDMM (Research & Development for Monodzukuri through Marketing) 支援センターは、持続的にイノベーションを創出する連携のハブ(hub)となる組織です。マーケットを常に見据えながら、サービスを含むものづくりのためのR&D支援を行います。企業の強みを活かしつつ新たな事業・産業創出を目指していきます。



けいはんなR&Dイノベーションコンソーシアム

「けいはんなR&Dイノベーションコンソーシアム」は、WG(ワーキンググループ)活動における未来マーケティング、デザイン学等を通じた新たな事業・商品コンセプトの創出をねらいとしています。生み出されたコンセプトを具現化するプロジェクト活動の早い段階で価値評価できるリアルオプション手法、けいはんなの立地を活かした実証実験の場などの提供を通じ、産学官連携や異業種連携、研究開発成果の利用を促進し、新事業、新産業の創出を加速します。

ASEAN, IORA 諸国との新産業創出・イノベーション連携

AIJプラットフォームの構築・活用

AIJプラットフォームは、イノベーションや新事業・新産業創出に向け、日本/けいはんな学研都市とASEAN, IORA諸国のサイエンスシティがハブとなり、研究機関、大学や企業とのイノベーション連携のための、具体的仕組みとプロジェクトを提供します。

現在、AIJプラットフォームを活用し、タイ・NSP(北部サイエンスパーク)と関西企業とのプロジェクトが発足し、バイオ・メディカル・食品などの分野で協業検討がされています。

※ AIJ: ASEAN, IORA:環インド洋連合, Japan

住民クリエイティビティの活用

Clubけいはんな

住民の皆様の意見を未来の産業・商品づくり、街づくりに反映させるための住民参加の組織です。会員の皆様には、未来の商品やサービスにつながる意見を伺ったり、これらに関する検討会等に直接参加いただけます。

※2020年3月現在、会員は2,600名



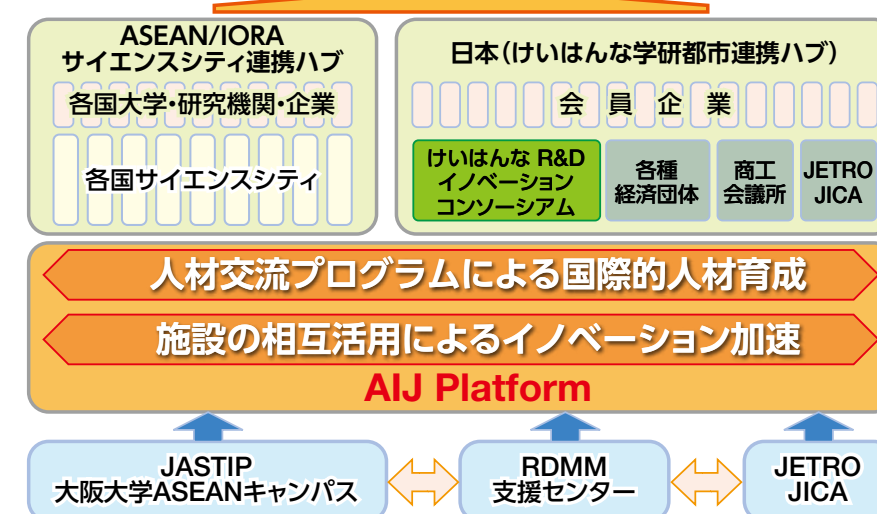
特区活用

公道走行実証実験プラットフォーム「K-PEP」

K-PEP(Keihanna Public road Experimental Platform)は、自動運転等の新技術や新たな交通システムの確立に向け、けいはんな学研都市が有する様々な資産を活かした日本で初めての企業乗合型、住民参加型の公道走行実証実験プラットフォームです。

RDMM支援センターは、警察・自治体等の行政や地元住民との調整を含め、実証実験をワンストップで支援しています。

グローバル連携イノベーションによる新事業・新産業創出



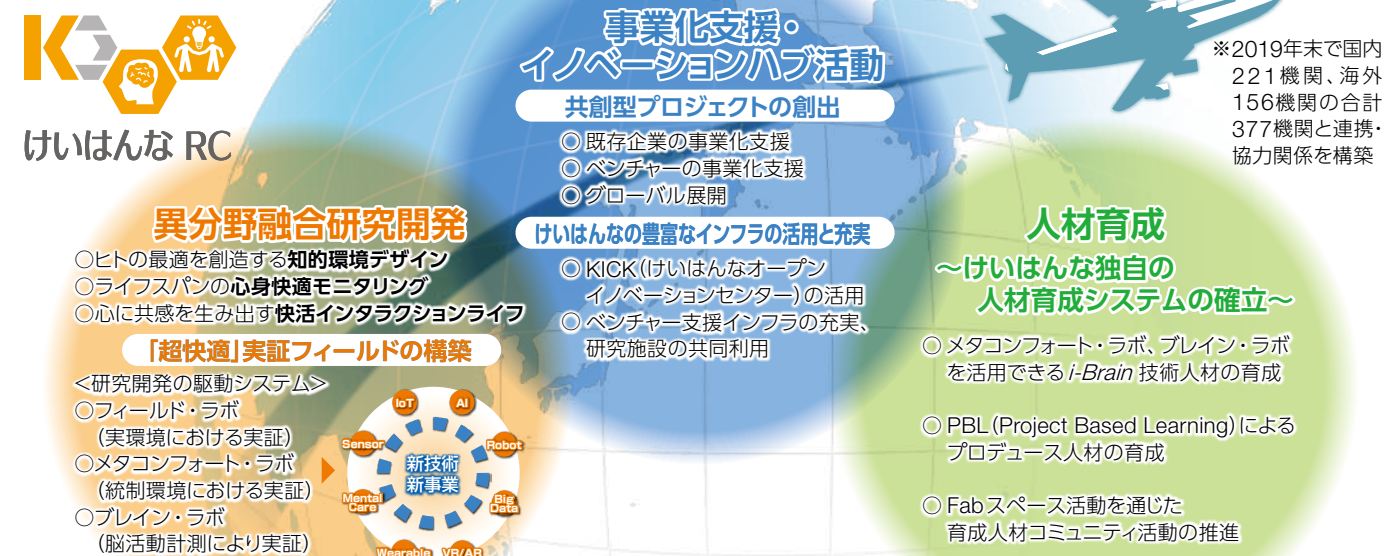
けいはんな学研都市の 持続的なイノベーションの創出 2

「モノの豊かさ」から「ココロの豊かさ」へ

i-Brain×ICT「超快適」スマート社会の創出 グローバルリサーチコンプレックス

けいはんなリサーチコンプレックス事業では、i-Brain(脳科学・人間科学)の研究成果の豊富な蓄積と高度なICT(情報通信技術)を融合し、現在のAIでは未だ十分に解明・活用されていない脳科学分野の研究開発を戦略的に推進すると同時に、平安、活力、共感など、「ココロ」の豊かさ向上に着目した「超快適」につながる新たな技術・サービス等のイノベーションの創出を図り、こうしたイノベーションが持続的に起こる社会システム(イノベーションエコシステム)を構築することで、人のココロに寄り添う「次世代型スマートシティ」の実現を目指します。

この事業は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム」の全国3拠点の一つとして採択されたもので、地域に集積する産・学・官・金(金融機関)のプレイヤーが共同で5年後、10年後、その先に実現される地域の姿と社会的価値を「ビジョン」として掲げ、最先端の研究開発、成果の事業化、人材育成を一体的、統合的に展開するための複合型イノベーション推進基盤としてのリサーチコンプレックスを成長発展させることを目的としています。



五感情報を制御可能な実証実験室

メタコンフォート・ラボ(MC-Lab)



Room1 制御室 Room2

(空調／照明／映像／音響／アロマといった五感要素を複合的に組み合わせて「超快適」というココロの動きを定量的・客観的に捉え、事業化に結び付けていくための実験室)

けいはんな学研都市における 様々な交流

けいはんな学研都市では、様々なイベントを通じて、住民と研究者、研究者同士等の活発な交流が行われています。

住民・研究者の交流

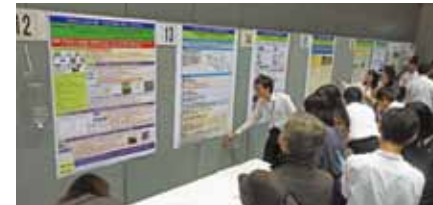
○大学連携「市民公開講座」

本都市に立地する大学が連携して、「けいはんなから『知の発信』」をキーワードに開催しています。住民の関心の高い分野について、専門の講師が最先端の研究事例をわかりやすく解説しています。



○まほろば・けいはんなSSH※サイエンスフェスティバル

本都市周辺の中高校生を対象に開催しています。講演会とポスターセッションからなり、ポスターセッションでは研究者や技術者との自由な意見交換や議論が行われ、貴重な教育の場となっています。※SSH: Super Science High Schools



○けいはんなサイエンスカフェ

各界で活躍されている有識者等をゲストスピーカーに迎え、最先端の科学技術に触れながら、講師をはじめ参加者相互の交流を深め、異業種交流による新たな事業の創出等を目指しています。



○けいはんなイノベーション交流会

本都市に立地する企業や研究機関など、様々な立地施設の研究者・従業員等を対象に、職種・業界の垣根を越えた幅広いテーマでの情報交換が出来る交流の場を開催しています。



○けいはんな情報通信フェア

本都市に立地する情報通信関連機関などが協力し、講演をはじめ、展示やデモンストレーションで情報通信分野の最先端技術や研究成果をわかりやすく紹介しています。



<その他の取り組み>



けいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」



高山サイエンスフェスティバル



けいはんなプラザ・プチコンサート

ビジネス交流

○けいはんなビジネスメッセ

本都市に立地する先端技術を有する中小・ベンチャー企業をはじめ、大学や研究機関などのシーズと幅広い産業ニーズとの連携やマッチングの場を提供し、新産業創出や地域産業振興に貢献するため、展示商談会を開催しています。



○京都スマートシティエキスポ

国内外のICT産業関連企業や団体、研究者等が集い、交流し、お互いに刺激を受ける場を設け、新たなビジネスに繋がるチャンスを提供。AIやIoTの専門家等の講演や先進自治体の取り組み紹介も行います。



交
流

けいはんな学研都市における様々な交流



産
業
創
出

けいはんな学研都市の持続的なイノベーションの創出 2

立地施設・機関

主な公的施設・機関等

公益財団法人 国際高等研究所 (IIAS)

国際高等研究所は「人類と未来と幸福のために、何を研究すべきかを研究する」ことを基本理念に1984年に設立されました。21世紀にあるべき文化・科学・技術のあり方を見据え、基礎的研究に基づいて課題の発見から解決までの総合的な研究に取り組んでいます。また、けいはんな学研都市地域の振興に寄与することを目指した研究のほか、産官公民と連携し、さまざまな交流活動を行い、持続可能で豊かな社会の実現に貢献します。



「けいはんな学研都市地域の振興に向けた具体的試み〜ヘルスリテラシー向上を通して〜」研究会(2019年度から開始)



けいはんな「エンジン」の会
けいはんな学研都市の立地機関間の連携を促進するため、「ネットワーク構築」と「協業を生むための土壌づくり」に意欲的に取り組んでいます。

株式会社 国際電気通信基礎技術研究所 (ATR)

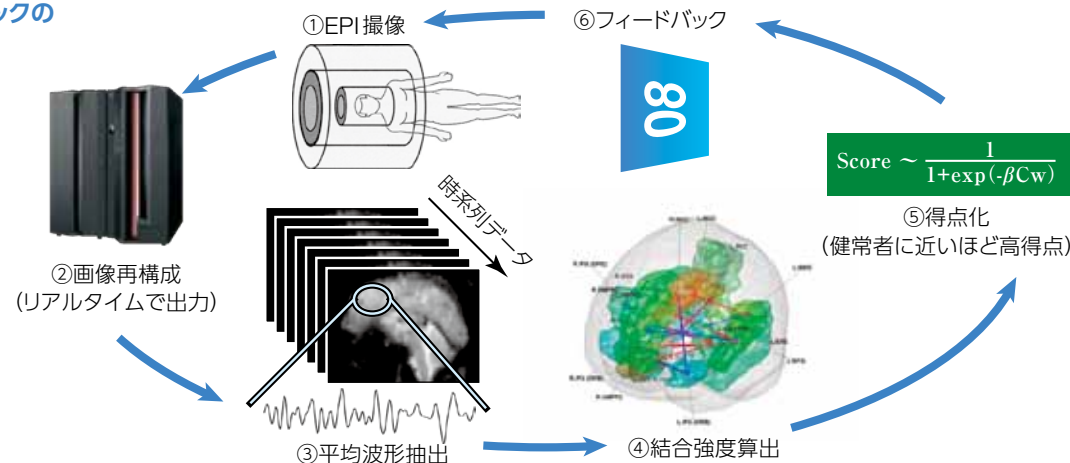
fMRIを用いた精神疾患の治療方法の開発やネットワーク型BMI(ブレインマシンインターフェイス)の研究開発による高齢者や要介護者の生活自立支援など、脳情報科学、ライフサポートロボット、無線通信の分野を中心に研究開発に取り組んでいます。



ERATO 石黒共生ヒューマンロボット
インタラクションプロジェクトによる
自律対話型アンドロイド[ERICA]

データと人工知能技術に基づく先進的fMRI 実時間ニューロフィードバックの 精神疾患治療への応用

精神疾患は脳ダイナミクスの異常であるという仮説に基づき、脳ダイナミクスを脳機能結合パターン(結合NF)、もしくは多重ボックスパターン(DecNef)としてバイオマーカーとデコーダーにもとづき定量化する。疾患ダイナミクスを健常ダイナミクスへと強化学習(神経オペラント条件付け)で誘導する。



国立国会図書館関西館

関西館は、学研都市のイノベーションを情報面で支える大規模な調査研究図書館です。国内外の図書200万冊以上、雑誌・新聞11万タイトル以上に加え、欧文会議録、テクニカルレポート、海外博士論文、国内外の規格などの科学技術関係資料約350万件、全国の大学の博士論文約60万人分、文部科学省科研費報告書約17万件、アジア関係資料約50万冊を所蔵しています。さらに、国内新聞記事、大宅壮一文庫雑誌記事索引、D1-Law.com、医中誌Web、JDreamIII、Web of Science、ScienceDirect、EBSCOhost、ProQuest Central、CNKI、KISSなどの電子ジャーナルやデータベースもご利用いただけます。



学会誌や業界紙、電子ジャーナルなどを利用し、最新の研究動向等を把握することができる総合閲覧室及びアジア情報室。皆様の調査や研究開発に役立つ資料を揃えています。

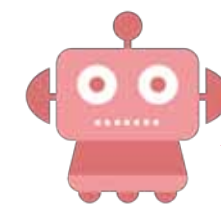


十数名でご利用いただける共同研究室と、個人で利用可能な研究室を複数用意しています。図書館の資料や情報を活用したディスカッションや、静かな環境で集中したい時にご利用ください。

けいはんな学研都市では、環境・エネルギー、情報通信 (ICT)、バイオサイエンス、光科学、ナノサイエンス等、多様な分野での先端的研究開発が行われており、先端技術に基づく、商品・サービスの創出やものづくりの革新に向け、世界有数の大企業から中堅・ベンチャー企業まで多様な企業が活躍、これらを支える公的研究機関や大学も活発に活動を推進しています。

国立研究開発法人 情報通信研究機構 (NICT)

情報通信分野を専門とする唯一の公的研究機関として、情報通信技術の研究開発を推進しています。けいはんな地区では、データと情報から知識・知恵へ、情報分析技術を社会知解分析技術に発展させるための研究開発、言葉の壁を超えるための多言語音声翻訳技術の研究開発を推進しています。



業務用カラオケと見守りロボットを活用して高齢者介護に役立てよう

対話するロボットで高齢者介護ができるといいね

WEKDA

NICTの大規模Web情報分析システムWISDOM Xが提供する知識を基に、ユーザと様々な話題やトピックスに関して対話できる次世代の音声対話システムです。AIの深層学習を利用することで、価値ある情報を自然な対話によってユーザに提供することができます。

公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 (RITE)

地球温暖化対策技術のCOEとして、発電所や製鉄所などの排気ガスからCO₂を分離回収し、地中へ貯留するCCS技術、非可食バイオマスから燃料や化学品を生産するバイオリファイナリー技術、様々な温暖化対策技術进行分析・評価し、効果的な温暖化対策・政策の立案に役立つシナリオの策定、水素社会に不可欠な水素の分離・精製などへの適用が期待される無機膜の研究など、革新的なエネルギー・環境技術の研究開発を行っています。



微生物を利用した非可食バイオマスからのバイオ燃料・化学品生産



X線CT画像解析 (CO₂流動状況の可視化)

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 (QST)

関西光科学研究所

世界トップクラスの超短パルスレーザーであるJ-KARENレーザーをはじめとする高強度レーザーを開発し、レーザー加速技術による粒子線がん治療器にも応用可能な小型加速器の開発、レーザーを用いた遠隔・非接触で短時間にコンクリート内部の欠陥を検知できるレーザー打音技術の実用化やレーザーを用いた手のひらサイズの非侵襲血糖値センサーの開発等、高強度レーザーの学術応用、医療応用、産業応用に取り組んでいます。



世界トップクラスの超短パルス高強度レーザー J-KAREN



遠隔・非接触で短時間にコンクリート内部の欠陥を検知できるレーザー打音技術

国立研究開発法人 理化学研究所(RIKEN)

理化学研究所(理研)は、時代と国の要請に応え、わが国の産業発展のための研究開発や成果普及を推し進めてきた、日本で唯一の自然科学の総合研究所です。理研では、世界最高水準の成果を生み出すため、「科学力展開プラン」(経営方針)の柱の一つとして、大学や企業と連携してイノベーションを生み出す「科学技術ハブ」機能の形成を進めており、けいはんな学研都市での活動もその一つと位置付けています。当地の研究機関等との連携を通じ活動拠点を整備し、研究活動を推進しています。



けいはんなプラザスーパーラボ棟

けいはんな学研都市における理研の活動			活動場所
研究部門	バイオリソース 研究センター(BRC)		様々な疾患の患者さんから樹立された疾患特異的iPS 細胞をバイオリソースとして提供しています。疾患特異的iPS 細胞を活用することで、培養皿で疾患病態を再現し、疾患メカニズム解明・創薬開発を加速すると期待されています。
	iPS 創薬基盤開発 チーム	疾患特異的iPS細胞から、体内の様々な細胞を作製、解析する方法を確立し、病態解明・創薬のための基盤技術を開発しています。	けいはんなプラザ
	革新知能統合研究 センター(AIP)		革新的な人工知能基盤技術を開発し、それらを応用することにより、科学研究の進歩や実社会における課題解決に貢献することを目指しています。また、人工知能の普及により生じる社会的問題等への対応の研究も行っています。
	防災科学チーム	自然災害が生じた際、被害を最小限に食い止めるとともに、被災した社会システムを効率的かつ効果的に復旧し、速やかに社会・経済活動を再開可能とするための研究を実施しています。	国際電気通信基礎 技術研究所(ATR)
	計算脳ダイナミクス チーム	革新的な精神疾患診断・治療技術を開発するために、fMRI・脳波・脳磁図・近赤外分光計測のビッグデータ解析、脳ダイナミクスモデリング法の研究開発を行っています。	
	脳情報統合解析 チーム	日常生活中に収集したマルチセンサ情報と脳情報の統合解析による脳状態推定法、fMRI情報を活用したロバストな脳波解析法などの基盤技術開発を進めています。	
	観光情報解析 チーム	IoTに基づくセンシングとソーシャルメディアにより得られる大量の情報を解析し、深層学習を活用することで発展させ、これらの技術をインバウンド観光情報の解析に適用しています。	奈良先端科学技術 大学院大学(NAIST)
	人工知能倫理・ 社会チーム	モノや機械、人工知能との共存・共生を通し、共進化していくための倫理的基盤の整備のため、総合倫理のプラットフォームの構築を目指しています。	京都大学、 国際高等研究所(IIAS)
	科技ハブ産連本部 バトンゾーン研究推進プログラム ロボティクスプロジェクト		国際電気通信基礎 技術研究所(ATR)
	事務部門	科技ハブ産連本部 科学技術ハブ推進部 科学技術ハブ推進課 けいはんな研究支援室	

スマートな暮らしを育むまちづくりの推進

環境・エネルギー分野をはじめ、交通システム、健康、食・農業、文化・教育など、様々な分野で、脳科学技術やICT関連技術を活用した快適な暮らしや地域社会の実現に向けた取り組みを進めます。

■ 情報提供・発信等

京都スマートシティエキスポをけいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)やけいはんなプラザ等を拠点に開催し、けいはんな学研都市の立地施設・企業、国内外の最先端の関連技術・システムの情報提供や発信を行い、ビジネス交流等を通じて、社会実装に向けた事業化、産業化の促進を支援します。

■ 関連技術・システムの創出

RDMM支援センターや、けいはんなリサーチコンプレックスの取り組みとも連携し、KICKを活用して、スマートライフ、スマートエネルギー & ICT、スマートアプリ、スマートカルチャー&エデュケーションの4分野を柱に、オープンイノベーションを基軸としたスマートシティ推進に向けた関連技術・システム等の創出を推進します。



けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)

都市建設のあゆみ

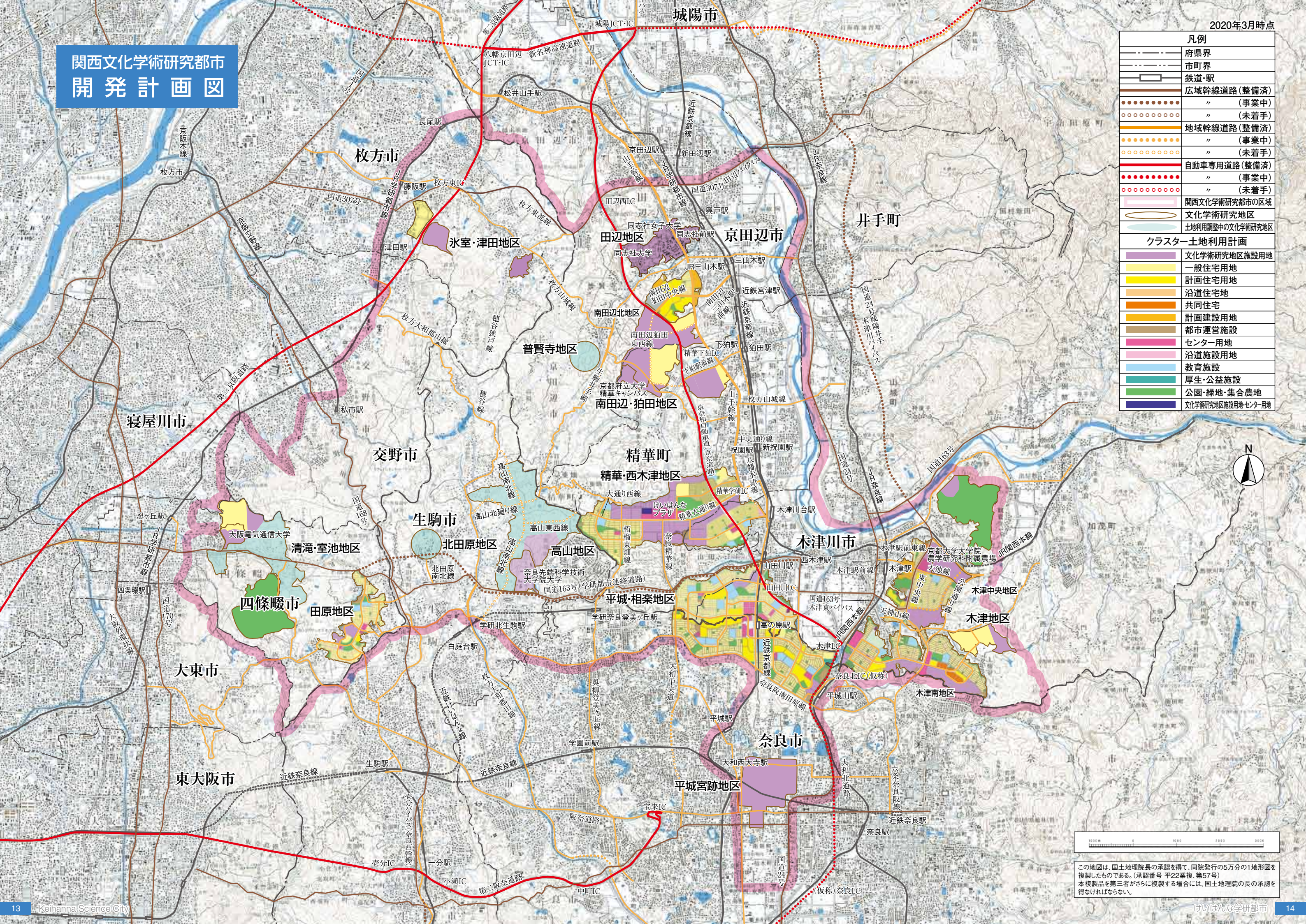
昭和53年 1978年	9月 「関西学術研究都市調査懇談会(座長 奥田東 京都大学元総長)」が発足
11月	内閣総理大臣が関西学術研究都市構想の調査を進める内容を盛り込んだ「近畿圏基本整備計画」を決定
昭和56年 1981年	11月 京都府が「文化・学術・研究都市建設基本構想案」を発表
昭和57年 1982年	6月 国土庁が「関西学術研究都市基本構想」(パイロットプラン)を発表
昭和58年 1983年	3月 3府県、関西経済連合会等により「関西文化学術研究都市建設推進協議会」が設立
昭和59年 1984年	2月 奈良県が「関西文化学術研究都市における奈良県の基本構想」を発表
3月	京都府が「関西文化学術研究都市(京都府域)建設基本計画案」を発表
昭和60年 1985年	3月 大阪府が「関西文化学術研究都市大阪府基本構想」を発表
昭和61年 1986年	4月 同志社大学・同志社女子大学田辺校地開校
6月	住宅・都市整備公団(現都市再生機構)、3府県、関西経済界により「関西文化学術研究都市推進機構」が設立
9月	「関西文化学術研究都市建設促進議員連盟」が発足
昭和62年 1987年	6月 関西文化学術研究都市建設促進法が公布・施行
9月	関西文化学術研究都市の区域を指定促進法に基づく「関西文化学術研究都市の建設に関する基本方針」が決定
昭和63年 1988年	6月 学研都市シンボルマーク「飛天」が決定
平成元年 1989年	4月 国際電気通信基礎技術研究所(ATR)が開所
8月	文化学術研究交流施設設置運営主体として株式会社けいはんなが設立
平成2年 1990年	7月 イオン工学センターが開所(現イオンテクノセンター)／国道163号清滝第1トンネルが開通
平成3年 1991年	4月 緑の文化園(自然公園施設)が開園
12月	京奈道路(田辺西～精華下狛)が開通
平成5年 1993年	3月 京奈道路(精華下狛～山田川)が開通
4月	文化学術研究交流施設けいはんなプラザが竣工・オープン 奈良先端科学技術大学院大学が最初の入学式
10月	国際高等研究所が開所(設立は昭和59年8月)／高山サイエンスプラザが開所
11月	地球環境産業技術研究機構(RITE)が開所
平成6年 1994年	9月 学研都市びらき「けいはんな学研都市フェスティバル'94」開催
平成7年 1995年	4月 京都府立けいはんな記念公園が開園
平成9年 1997年	4月 京都府農業資源研究センター(現京都府農林水産技術センター生物資源研究センター)及び京都府立大学農学部附属農場が開所／第二阪奈道路が開通
平成10年 1998年	2月 平城宮跡朱雀門復原工事竣工
5月	セカンド・ステージ・プラン事業推進会議が「セカンド・ステージ・プランの実現化を目指して」を発表
平成11年 1999年	5月 日本原子力研究所関西研究所量子科学研究センターが研究開始(現 量子科学技術研究開発機構 関西光科学研究所)

平成12年 2000年	4月 京奈道路(山田川～木津)が開通
7月	通信総合研究所けいはんな情報通信融合研究センターが開所 大阪大学大学院工学研究科自由電子レーザー研究施設が開所
平成13年 2001年	7月 きっづ光科学館ふおとんが開館
平成14年 2002年	4月 学研都市の研究プロジェクトが文部科学省「知的クラスター創成事業」に選定
10月	国立国会図書館関西館が開館
平成15年 2003年	3月 第二京阪道路(巨椋池～枚方東)が開通
4月	学研都市が外国人研究者の在留要件緩和などの「知的特区」に認定
6月	通信総合研究所けいはんな情報通信融合研究センター「けいはんなオープンラボ」が開所
平成17年 2005年	4月 けいはんな新産業創出・交流センターが開所
11月	中国北京市中関村科技園区と交流促進協定締結
平成18年 2006年	3月 「関西文化学術研究都市サード・ステージ・プラン」を策定／近鉄けいはんな線が開業
11月	同志社大学学研都市キャンパスが開校
12月	同志社大学京田辺キャンパス内に中小企業基盤整備機構のD-eggが開所
平成19年 2007年	3月 木津町、加茂町、山城町が合併し、木津川市が誕生
4月	学研都市の立地施設数が100を突破
10月	「科学のまちの子どもたち」プロジェクトがスタート
平成20年 2008年	5月 産学官連携事業「ユビキタス生体計測ヘルスケアデバイス・システムの開発事業」が文部科学省の「都市エリア産学官連携促進事業」に採択
平成21年 2009年	7月 関西文化学術研究都市推進機構と「けいはんな新産業創出・交流センター」が統合
平成22年 2010年	1月 平城遷都1300年祭が開幕
3月	第二京阪道路(枚方東～門真)が開通／新産業の創出・起業による広域産業集積を図る「けいはんな地域広域基本計画」を策定
4月	学研都市地域が経済産業省の「次世代エネルギー・社会システム実証地域」に選定
平成23年 2011年	4月 同志社国際学院が開校
8月	けいはんな学研都市ヘルスケア開発地域が地域イノベーション戦略推進地域「国際競争力強化地域」に選定
12月	学研都市を拠点に含む関西イノベーション国際戦略総合特区に指定
平成25年 2013年	4月 北大阪高等職業技術専門学校が開校
平成26年 2014年	3月 国道163号清滝第2トンネルが開通
平成27年 2015年	5月 けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)が開所
平成28年 2016年	3月 「新たな都市創造プラン」を策定
4月	京都大学大学院農学研究科附属農場が開所
9月	学研都市の研究プロジェクトが科学技術振興機構(JST)が実施する「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム」に本採択
平成29年 2017年	4月 新名神高速道路(八幡京田辺JCT・IC-城陽JCT・IC)が開通
9月	公道走行実証実験プラットフォーム(K-PEP)の提供を開始
平成30年 2018年	3月 平城宮跡歴史公園が開園
4月	理化学研究所けいはんな地区「iPS細胞創薬基盤開発連携拠点」が開所
令和2年 2020年	3月 国道163号木津東バイパス、都市計画道路東中央線が開通

関西文化学術研究都市
開 発 計 画 図

2020年3月時点

凡例	
	府県界
	市町界
	鉄道・駅
	広域幹線道路(整備済)
	〃 (事業中)
	〃 (未着手)
	地域幹線道路(整備済)
	〃 (事業中)
	〃 (未着手)
	自動車専用道路(整備済)
	〃 (事業中)
	〃 (未着手)
	関西文化学術研究都市の区域
	文化学術研究地区
	土地利用調整中の文化学術研究地区
クラスター土地利用計画	
	文化学術研究地区施設用地
	一般住宅用地
	計画住宅用地
	沿道住宅地
	共同住宅
	計画建設用地
	都市運営施設
	センター用地
	沿道施設用地
	教育施設
	厚生・公益施設
	公園・緑地・集合農地
	文化学術研究地区施設用地・センター用地



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平22業複、第57号)
本複製品を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。



アクセスマップ



道路アクセス

- ・京都駅からけいはんなプラザまで約40分
(第二京阪道路・新名神高速道路・京奈和自動車道経由)
- ・新大阪駅からけいはんなプラザまで約55分
(阪神高速守口線・近畿自動車道・第二京阪道路・
新名神高速道路・京奈和自動車道経由)



鉄道アクセス

- ・京都駅からけいはんなプラザまで約50分
(近鉄京都線・奈良交通バス)
- ・大阪難波駅から
けいはんなプラザまで約60分
(近鉄奈良線・近鉄けいはんな線・奈良交通バス)



けいはんな学研都市



公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構
関西文化学術研究都市建設推進協議会

〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1丁目7 (けいはんな学研都市)
けいはんなプラザ ラボ棟3F
TEL.0774-95-5105 FAX.0774-95-5104 URL.https://www.kri.or.jp/

